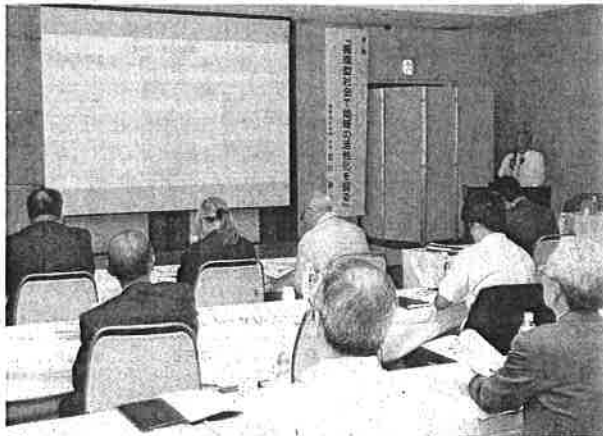


# 紙おむつの再利用学ぶ

福岡の  
事業者講演  
高齡化社会で「有用」

全国に先駆けて福岡県大木町で展開されている使用済み紙おむつのリサイクルに関する講演会が28日、秋田市のホテルメトロポリタン秋田で開かれた。町から事業受託しているトータルケア・システム(福岡市)の長武志社長が、建築資材に再資源化する取り組みを紹介。「行政が責任をもって紙おむつを回収すれば、どの自治体でも実施できる」と述べ、行政関係者や介護事業者など約30人に普及を呼び掛けた。

県中小企業団体中央会の主催。大木町は2011年10月、紙おむつリサイクル事業を始めた。町内各地にボックスを設置して紙おむつを集め、町外の同社のリサイクルプラン



紙おむつのリサイクル事業を紹介した講演会

同町では、燃やすごみの重量比で紙おむつは11%(08年度)を占める。長社長は「今後は高齡化が進み紙おむつの使用量は増加する。水溶性処理は焼却処理と比べ、二酸化炭素排出量を40%削減できる」とし、リサイクルの有用性を説明。「介護施設などでは紙おむつを多く排出している。事業化には行政は環境担当だけでなく、福祉担当と一体となって取り組むことが重要だ」と述べた。

このほか、大木町の石川潤一町長が、同町での循環型社会の形成に向けた取り組みを紹介した。  
(石塚健悟)